

地域の基幹病院として、さらに医療・介護・福祉の連携拠点に!

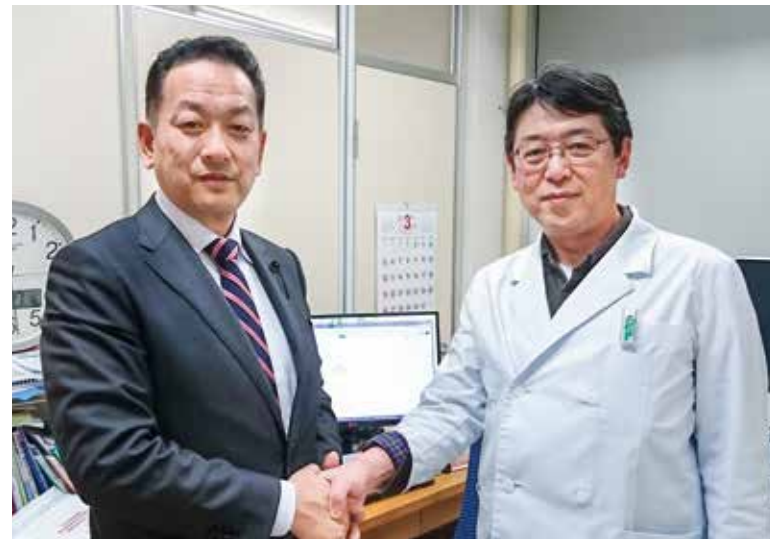
医療だけでなく、 教育環境、人材の確保、 周辺の街の再開発までも必要。

山科 新庄病院の移転改築と機能強化が決定しました。

三條院長 住民目線からすると新庄最上はいろいろな意味で他地域から遅れていると感じる。病院もその一つだが、施設設備が新しくなり充実することは喜ばしいことだ。一方、新庄最上地域の人口減少、人口推移を考慮して身の丈に合った病院にすることも考えなければならぬ。

山科 医師確保についてはいかがですか。

三條院長 現在、勤務医、開業医とも絶対数が不足している。新庄最上地域では、開業医が26人しかいない。最上地域保健医療対策協議会が医学部5、6年生を対象にセミナーを実施しているが、就職に繋がっていない。平成28年度は参加者もゼロになった。若い医師や学生にとって新庄最上地域は魅力を感じないようだ。



山科 具体的には。

三條院長 地域に活気がないからだと言っている。例えば、若い医師にとっては遊ぶところ、子育て中の医師にとっては教育の選択肢が少ない。

山科 やはり、子育てや教育環境の整備が重要ですね。高等教育機関がないというのも新庄最上地域の課題だと考えます。医師の方が定住する教育環境づくりを考えないといけない。ある程度子育てを終えた年代の先生方のお考えはいかがですか。

三條院長 雪が課題ですね。新庄最上の方も定年すると村山地域に転居される方がいるくらいです。新たに雪の多い地域に来るのはハードルが高い。

山科 山大医学部に「地域枠」ができました。地域枠からの地元定着についてはどう思われますか。

三條院長 この地域から山大にかかわらず医学部に進学している人もいますし、山形県出身の医学生もいるが、一度県外、市外に行くこと戻ってこないことが多い。地元よさや魅力をアピールして若い医師に戻ってもらえるような対策が必要だ。看護師確保も同じではないか。

山科 新たな専門科として「総合診療科」を整備する方向性がありましたね。国の方針で現在ストップしています。

三條院長 新庄病院で総合診療医を育成するはずだった。それにより、総合診療医を目指す若い医師が集まり、へき地医療や町村の診療所の即戦力になることを期待していただけに残念に思う。

山科 医師会の先生方が休日夜間診療所で時間外の診察に当たってくださっています。

三條院長 そもそも、新庄病院の急患室の受診を減らし医師の負担を減らす目的

三條 典男氏

三條医院 院長
新庄市最上郡医師会 会長

だった。しかし現実には、新庄病院の「コンビニ受診」が減るところが増えている。日中に受診せず急患室だけを受診している人もいるのが現状だ。開業医が少ないので診療所の当番回数も多く開業医も休みを取りにくい実態がある。

山科 ただでさえ不足している医師の負担が減っていないのは問題ですね。新たにできる新庄病院に休日夜間診療所を併設するのはいかがですか。

三條院長 県は前向きなようだが、診療所は市立なので市の判断となるでしょう。

山科 新庄病院には新たに地域救命救急センターが設置される計画がありますか。

三條院長 ドクターヘリは気象条件によって飛ばないこともあるので、救命救急センターの設置によりこの地域での救命率が上がると期待している。ただ、法律上の人員規程等もあるためスタッフの充実が課題となるだろう。

山科 病院建設が決定しましたが、むしろこれから、いかに人材を確保し定着してもらえかが新庄病院の維持継続を考えると重要ですね。

三條院長 50代以上の開業医が大半なので開業医もこのままでは激減する。医療だけ独立して考えるのではなく、周辺の街づくりを同時にやる必要がある。若い医師が住みたくなる街づくりという再開発が必要。その一つとして大学の存在は大きい。若者が来れば街も変わる。日本だけでなくアメリカでも実例がある。

山科 私も以前から高等教育機関(大学や研究所)の必要性を訴えてきましたが、医療の充実とも関係が深いとのこと指摘は納得です。街づくりは行政だけでなく住民の皆さんの力も必要ですね。ありがとうございます。

地域で医療が完結できること。 介護、福祉までの包括的な 診療連携体制の構築を。

山科 私はこれまで、新庄病院の改築は、単なる建物の建て替えではなく、施設整備と併せて病院機能の充実強化を図る必要があると申し上げてきました。病院事業局では新病院の将来像をどのように描いているのかを教えてください。

新澤病院事業管理者 最上地域の医療を守り支える基幹病院としての機能を確実に整備したいと思っています。

平成28年度、県立新庄病院の改築整備に向けた基本構想を策定し、目指すべき方向(あるべき姿)について整理しました。

まず第一に、最上地域唯一の基幹病院として地域で医療が完結できることを目指します。そのうえで、医療機能の重点化と二次医療圏を越えて山形大学や県立中央病院などとの広域的な診療連携体制を構築することとしています。

また、新庄病院の医師の確保に力を入れていきます。最上地域の公的医療機関を持続的に支えることができるよう医師派遣機能や教育研修機能等に係る拠点機能を備えた病院とします。へき地医療拠点病院としての役割も果たしていきます。

さらに、地域包括ケアシステムや、障がい児医療・療育への対応として、必要な機能や体制の整備と強化を図り、最上地域で安心して暮らせる医療と介護・福祉の連携拠点となるよう整備していきます。

山科 新庄病院が今後地域医療を守り支えていくためには、地域内外の医療機関との連携をさらに強化していく必要があります。

新澤病院事業管理者 限られた医療資源を有効に活用し、質の高い医療を実現するためには、最上地域の他の医療機関(町立病院や診療所等)との機能分担と連携を図り、しつ

かりした医療供給体制を構築することが大切です。

新庄病院が、急性期医療を必要とする患者の皆様に必要な医療を提供するため、かかりつけ医と新庄病院の診療機能に関する役割分担が必要ですね。加えて、地域の医療機関や介護施設等との連携により、回復期病院や在宅での療養に安心して円滑に移行していくため、退院調整機能をより一層充実していきたいと思っています。

また、山形大学や県立中央病院の三次医療機関への救急搬送のため、敷地内へリポートの整備を行う予定です。

山科 最上地域は高齢者の割合が多く、今後、ますます介護・福祉との連携が重要になります。

新澤病院事業管理者 地域包括ケアシステムの構築という点になりますが、最上地域全体の医療・介護・福祉等の関係機関と連携したサービス提供の体制を整える必要があります。

新庄病院は、医療と介護・福祉の連携拠点としての役割を果たしていきます。

平成26年に設置した地域包括ケア病棟は今後も維持します。また、介護施設や在宅での療養中に急変した患者を受け入れる緊急入院機能も確保していきます。

地域医療情報ネットワーク「もがみネット」の一層の活用も図っていききたいと思っています。

山科 今後に向けて平成29年度に策定する基本計画が重要です。どのように取りまとめしていく考えをお聞かせください。

新澤病院事業管理者 「基本計画」の策定にあたっては、新庄病院内に検討会や専門部会等を設けて、具体的な検討を進めるとともに、有識者による検討委員会を設置して

新澤 陽英氏

山形県病院事業局 病院事業管理者

課題を整理していきます。

「基本構想」では、新病院の病床数を300〜340床程度としています。具体的な病床数については、「山形県地域医療構想」の最上地域における調整内容等も踏まえながら、また、地域の皆様が安心して暮らすよう折にふれ十分な説明を行いながら整理していきます。

開院時期を含めた整備スケジュールについても「基本計画」で具体的に整理します。

「基本計画」は、今後、新庄病院の改築整備を進めていくうえでの根幹となる計画ですので、着実に取りまとめ、地域の皆様の期待に応えられるよう、早期の開院を目指したいと思っています。

山科 せっかくなので街中にできる病院ですので、地域がにぎわうよう私もいろいろと提案させていただきます。よろしくお願いたします。



「山形県立新庄病院改築整備基本構想」より

現状

- [診療科] 内科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、乳腺外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科(16診療科)
- [病床数] 許可病床数454床／稼働病床数388床(一般386床(高度急性期、急性期、回復期)感染2床)
- [主な診療機能等] がん、高次専門医療(脳卒中、循環器疾患等)、糖尿病、周産期医療、小児医療、救急医療、災害時医療、へき地医療、臨床研修指定病院(初期研修医の受入れ)
- [福祉との連携] 退院支援、退院後の生活支援、地域包括ケアシステム構築への協力

主な課題

- 施設・設備の老朽化・狭隘化
- 診療環境の改善(患者動線と物流動線の整理等)
- 医療機関連携への対応(将来を見通した医療機能の重点化、連携の強化、医師確保等)

